

Ⅲ 調査結果のあらまし

第 42 回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

宇都宮市を好きか、嫌いか聞いたところ、「好き」は4割を超え、「どちらかといえば好き」は5割近くであり、この2つを合わせた【好き（計）】は約9割となっている。

宇都宮市で好きだと思うところを聞いたところ、「自然災害の少なさ」が6割近くで最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「自然環境の豊かさ」、「慣れ親しんだところ」の3項目がいずれも3割台となっている。

一方、宇都宮市の嫌いだと思うところを聞いたところ、「街に活気がないところ」が4割を超えて最も高く、次いで「交通マナーの悪さ」が3割台半ば、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と「交通渋滞の多さ」がともに2割台半ばとなっている。

宇都宮市を周辺環境から4つの地域に区分したとき、どの地域に住みたいか聞いたところ、「住宅地」が5割を超えて最も高くなっている。「周辺住宅地」は2割を超えており、「中心市街地」と「近郊農村地」はともに1割台である。

2. 行政改革の取組について

(1) 評価できる行政改革の取組

ここ数年間の行政改革の取組のうち、評価できるものを聞いたところ、「窓口のサービスを向上する」が3割台半ばで最も高く、次いで「職員数を減らす」と「市民の声を市政に反映する」、「民間に仕事を委託する」が2割前後となっている。

(2) 今後力を入れていくべき行政改革の取組

今後行政改革を進める上で、力を入れていくべきだと思うことを聞いたところ、「職員の給料を見直す」が3割台半ばで最も高く、次いで「窓口のサービスを向上する」、「職員の能力を高める」、「身近な問題は地域（自治会等）が自主的・自発的に解決できるように支援し、解決が困難な場合には行政が行うなど、市民と行政の役割を明確にする」、「職員数を減らす」などの順となっている。

(3) 行政改革の取組全体の評価

これまでの行政改革の取組についてどう思うか聞いたところ、「よくやっている」と「まあまあよくやっている」の2つを合わせた【よくやっている（計）】は2割を超えている。一方、「やや努力が足りない」と「努力が足りない」の2つを合わせた【努力が足りない（計）】は2割近くである。また、「普通」は4割である。

3. インターネットの利用について

(1) インターネットを利用するときの環境

主なインターネットの利用環境を聞いたところ、「携帯電話」が3割近くで最も高く、次いで「家庭にあるF T T H（光ファイバ）に接続されたパソコン」が2割台半ば、「家庭にあるA D S L（デジタル加入者線）やC A T V（ケーブルテレビ）に接続されたパソコン」が約2割などの順となっている。「インターネットは利用していない」は3割近くである。

(1-1) 利用したことのあるインターネットのサービス

インターネットの接続環境があると答えた人に、宇都宮市が提供しているインターネットのサービスのうち利用したことがあるものを聞いたところ、「宇都宮市ホームページのお知らせや案内」が約4割で最も高く、次いで「宇都宮市図書館蔵書検索システム」、「メール配信サービス（不審者情報、消防活動情報）」などの順となっている。

(2) 今後利用したいICTを活用した行政サービス

今後、ICT（情報通信技術）を活用した新たな行政サービスとして利用したいものを聞いたところ、「インターネットを利用した、住民票の写しの交付などの申請」が3割台半ばで最も高く、次いで「民産学官（市民・NPO等、産業界〔民間企業〕、大学等、市役所等の公共機関）のあらゆる地域情報を網羅し、住民が必要な情報にアクセスできる地域ポータルサイトの構築」、「インターネットを利用した、税金などの支払い」、「インターネットを利用した、税金などの申告」などの順となっている。

4. 広報媒体の活用状況について

(1) 「広報うつのみや」の閲読状況

「広報うつのみや」をどの程度読んでいるか聞いたところ、「くわしく読む」は1割台半ば、「ざっと読む」は約4割、「関心のあるところだけ読む」は3割近くで、この3つを合わせた【読む（計）】は8割を超えている。

一方、「あまり読まない」と「広報紙が届いていないので読まない」、「広報紙は届いているが読まない」の3つを合わせた【読まない（計）】は2割近くである。

(1-1) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」を読んでいると答えた人に、主にどの記事を読んでいるか聞いたところ、「市政情報（健康、文化、教養、税、雇用情報など）」が6割台半ばで最も高く、次いで「宇都宮美術館、市文化会館、ろまんちっく村、図書館など市の施設の催し物情報」、「相談窓口（法律・行政・健康など各種相談のお知らせ）」、「通常号特集（毎月。市の重点事業）」、「情報カレンダー（市イベントのカレンダー）」などの順となっている。

(2) 「広報うつのみや」で充実してほしい情報

今後、「広報うつのみや」で取り上げてほしい、または充実してほしい情報を聞いたところ、「保健・医療など健康に関すること」と「身近な暮らしに関すること」が3割を超えて高く、次いで「市の行事や催しのお知らせ」、「子育てや介護など福祉に関すること」、「市の各種制度や事務手続の説明」などの順となっている。

(3) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

広報紙以外の9つの広報媒体について、それぞれどの程度視聴しているか聞いたところ、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」の2つを合わせた【見た（聞いた）ことがある（計）】は、「インターネット（宇都宮市ホームページ）」で3割近くと最も高く、次いで「ほっとHOTみや」、「馬場町交差点にある電光表示板」、「JR宇都宮駅西口、鹿沼インター通り、平成通り、宇都宮環状線にある広報塔」などの順となっている。

(4) 市政情報を得るために利用したい手段

今後、市政に関する情報をどのような手段で知りたいか聞いたところ、「広報紙」が7割近く

で最も高く、次いで「新聞」、「テレビ」、「タウン誌」、「ホームページ」などの順となっている。

5. 男女共同参画について

(1) 家庭生活での男女の地位の平等感

現在、家庭生活上で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の2つを合わせた【男性優遇（計）】は5割を超えている。「平等になっている」は3割台半ばで、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の2つを合わせた【女性優遇（計）】は約1割である。

(2) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する理想と現実

生活の中で、「仕事」と「家事（育児）」、「プライベートな時間（趣味など）」のうち何を優先するかについて、【理想】と【現実】の2つに分けて聞いたところ、【理想】は、「プライベートな時間」が3割近くで最も高く、次いで「仕事・家事・プライベートな時間すべて」、「家事とプライベートな時間」、「仕事とプライベートな時間」などの順となっている。【現実】は、「仕事」が4割近くで最も高く、次いで「仕事と家事」、「家事」などの順となっている。

(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去2年間に、夫や妻、恋人から暴力を受けたことがあるか聞いたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」の2つを合わせた【経験あり（計）】の割合は、“精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫を受けた”が最も高く、次いで“身体に対する暴力を受けた”、“性的な行為を強要された”の順となっている。

6. 住宅用火災警報器の設置義務について

(1) 住宅用火災警報器の設置義務の認知度

すべての住宅等に住宅用火災警報器の設置が義務づけられたことを知っているか聞いたところ、「知っている」は9割を超えている。

(2) 住宅用火災警報器の設置状況

現在、自宅に住宅用火災警報器を設置しているか聞いたところ、「設置している」は5割を超えている。

(2-1) 設置していない理由

自宅に住宅用火災警報器を「設置していない」と答えた人に、その理由を聞いたところ、「義務化の内容などがわからない」が3割台半ば、「住宅用火災警報器の購入場所がわからない」が1割近くとなっている。

7. 自転車の利用について

(1) 自転車を利用する目的

自転車を主にどのようなときに利用するか聞いたところ、「買い物など日常生活での移動」が4割近くで最も高く、次いで「通勤・通学」、「余暇・スポーツ」などの順となっている。「利用しない」は約4割である。

(2) 市内での自転車の使いやすさ

宇都宮市は自転車を使いやすい街だと思いか聞いたところ、「そう思う」と「ややそう思う」の2つを合わせた【使いやすい(計)】は約3割となっている。一方、「そうは思わない」は6割近くとなっている。

(3) 自転車を使いやすい街になるための取組

どうすればより自転車を使いやすい街になると思いか聞いたところ、「自転車専用レーン等を整備する」が6割台半ばで最も高く、次いで「道路の段差を解消する」が約5割、「郊外の駅やバス停付近に駐輪場を整備する」、「中心部に駐輪場を整備する」、「放置自転車の撤去や指導を強化する」がいずれも2割台などの順となっている。

宇都宮市の取組についての意識調査の結果

1. 現在の宇都宮市について、どのように感じていますか。

現在の宇都宮市について、どのように感じているか、基本施策25本について【満足度】を聞いたところ、生活環境についての「上下水道サービスの質を高める」、「良好な水と緑の環境を創出する」、「快適な住環境を創出する」が6割を超え最も高くなっている。次いで、健康・福祉・安心についての「保健・医療サービスの質を高める」、都市基盤についての「高度情報化の恩恵を享受できる環境づくりを推進する」と続く。

平成20年度と比較すると、「上下水道サービスの質を高める」が7.9ポイント、「農林業の付加価値を高める」が7.3ポイントの増加となっており、「高度情報化の恩恵を享受できる環境づくりを推進する」で7.3ポイントの減少となっているが、10ポイントを超える大きな変動があった施策はみられなかった。

2. 施策の重要度と満足度

(1) 重要だと思う施策

取組の重要度を聞いたところ、【重要である(計)】の割合が高いのは『日常生活の安心感を高める』に多く、「防犯対策の充実」、「消防力・救急救助体制の充実」、「健康危機管理対策の強化」、「食品の安全性の向上」、「交通安全対策の充実」で8割を超えている。また、『上下水道サービスの質を高める』の「水道水の安心給水の推進」、「下水の適正処理の推進」と、『保健・医療サービスの質を高める』の「地域医療体制の充実」では8割台と高くなっている。

(2) 満足している施策

満足度について聞いたところ、【満足度(計)】の割合が高い取組は、『上下水道サービスの質を高める』の「水道水の安心給水の推進」と「下水の適正処理の推進」で5割を超えている。この他では、『保健・医療サービスの質を高める』の「地域医療体制の充実」、『日常生活の安心感を高める』の「消防力・救急救助体制の充実」、「食品の安全性の向上」が4割台で続いている。

一方、『商工業の活力を高める』の「中小企業の経営・技術革新の促進」、「安定した経営基盤の確立」、『信頼される学校教育を推進する』の「高い指導力と情熱をもつ教職員の育成」が約1割と低い満足度となっている。